

□■THAIFEX – Anuga Asia 2025 レポート：
過去最大規模の盛況と日本食の存在感■□



Photo: Koelnmesse Pte Ltd / THAIFEX – Anuga Asia

<https://thaifex-anuga.com/for-media/image-database/#>

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスの柴田です。

アジアを代表する食品・飲料業界の国際展示会「THAIFEX – Anuga Asia 2025」が、2025 年 5 月 27 日から 31 日までタイ・バンコクにて開催されました。毎年多くの出展者や来場者を集める本イベントは、食品業界の最新トレンドやビジネスチャンスが集約される場として、世界中から高い注目を集めています。

本記事では、2025 年の開催概要をはじめ、出展企業や来場者の動向、展示会場の様子に加え、タイの日本食市場の最新状況についてレポートします。

展示会の概要と成果

過去最大規模での開催となった今回は、57 か国から 3,231 社の出展者が集結。うちタイ国内からは 1,184 社、海外からは 2,047 社が参加し、多彩な食品・飲料関連商品や技術が展示されていました。昨年の出展者は 3,133 社（タイ国内：1,109 社、海外：2,024 社）でした。

来場者数も前年の 138,508 人を上回り、総数は 142,370 人に達しました。商談を目的に訪れた来場者は 88,349 人で、海外からは 20,566 人、国内からは 67,783 人という内訳です。一般公開日には 54,021 人が会場を訪れ、食品業界関係者だけでなく一般消費者からも多くの注目を集めた展示会となりました。

注目すべきは商談の成果で、会場での即時契約と 1 年以内の見込み契約額を合わせた総商談額は 1,356 億 7,000 万バーツ（約 3,900 億円）にのぼり、前年の 962 億 6,580 万バーツから 40.9% のプラスと大幅に増加しました。即時契約は 2 億 7,181 万バーツにとどまった一方で、今後 1 年以内に契約が見込まれる案件が 1,351 億 7,000 万バーツと、タイの食品産業における将来的なビジネスチャンスの大きさを物語る結果となりました。国別で見ると、中国、タイ、インド、ベトナム、日本が受注額の上位を占めており、アジアの食品市場における連携強化の兆しが見られます。特にタイ企業の商談額は約 990 億 9,000 万バーツに達し、国内産業の活性化に貢献しました。

これらのデータは、主催者のタイ商務省国際貿易振興局（DITP）およびタイ商工会議所（TCC）により公表されたもので、タイの食品産業の国際競争力と、THAIFEX がもたらすビジネスマッチングの場としての重要性を改めて示すものとなりました。

また、展示会場のエリア別に見ると、ファインフード（高級食品）やフードテクノロジー、ドリンク、冷凍食品、果物・野菜のゾーンが特に来場者からの関心を集めました。近年のトレンドである持続可能な食品や代替タンパク質に関連した商品も多く見られ、業界のイノベーションが進んでいる様子がうかがえました。

出典

THAIFEX Web サイト：<https://thaifex-anuga.com>

The Nation：https://www.nationthailand.com/business/trading-investment/40050775?utm_source=chatgpt.com

JAPAN PAVILION について



日本貿易振興機構（JETRO）が主催した「JAPAN PAVILION」では、日本の 37 社と 7 団体が出展し、多彩な日本産農林水産物や食品を東南アジア市場に向けて紹介しました。出展品目は牛肉や水産物、抹茶、酒類、飲料、菓子、調味料、加工食品、米、ゆず関連製品、そして健康志向の食品など幅広く、日本の高品質で安全な食材や製品の魅力を多くの来場者に伝えました。

多くのバイヤーや業界関係者が日本ブースを訪れ、日本食品の独自性や品質の高さに強い関心を示しました。特に、健康や環境への配慮を重視した製品群には特に強い関心が寄せられ、ブース内での商談も終始活発に行われていました。また、現在タイでは抹茶ブームが到来しているため、抹茶の試飲を提供している企業のブースにも多くの来場者が足を止めていました。

拡大を続ける日本食市場

前述の通り、「JAPAN PAVILION」に多くのバイヤーや来場者が詰めかけ、日本の食の魅力が改めて評価されました。このような盛況の背景には、タイ国内における日本食の認知と需要の継続的な高まりがあります。

JETRO バンコクが 2025 年 1 月に公表した「2024 年度タイ国日本食レストラン調査」によると、タイ国内では、特にバンコク首都圏を中心に日本食レストランの数は年々増加していま

島根・ビジネスサポート・オフィス便り vol.128

す。2024 年には全国で 5,916 店（前年比 2.9%増）の日本食レストランが営業しており、その中には本格的な高級和食店から、ローカル企業による「和風テイスト」のチェーンまで、多様な形態が共存しています。その中でも「総合和食」に分類される店舗が最も多く、前年から 6.3%増加し全国に 1,439 店舗に達しています。その他、居酒屋やラーメン、そば・うどん、カフェといった業態が店舗数を伸ばしています。

地域別に出店数を見ると、バンコク首都圏が最も多く全体の約 7 割（4,069 店舗）を占めます。バンコク以外の地域でも、特にプーケットやチェンマイなど地方の観光都市を中心に全国的に店舗数が増加しており、日本食がタイ全土に浸透していることがわかります。

出典：JETRO バンコク作成「[2024 年度タイ国日本食レストラン調査](#)」

タイに広がる「グリーン」な日本食のトレンド

先に触れた通り、THAIFEX の Japan Pavilion では、多くの来場者が健康・自然・品質にこだわった商品に注目し、日本食品の価値を再認識する機会となりました。近年のタイ市場では、こうした健康志向とともに、サステナブルな食のスタイル、そして抹茶を中心としたナチュラル志向の商品が安定した人気を誇っています。



健康志向とサステナブル志向の高まり

タイではコロナ禍以降「健康的な食生活」への意識が急速に高まり、オーガニック・低糖質・高たんぱく・植物由来（プラントベース）食品への関心が拡大しています。THAIFEX 会場でも、健康機能性食品や代替肉、ビーガン対応の商品が数多く出展され、日本のメーカーが持ち込んだ「低塩味噌」や「発酵食品」「玄米由来商品」などにも注目が集まりました。

さらに、環境配慮型の包装やサステナブルな生産プロセスを訴求する企業も増え、タイの消費者が食品の「背景」や「ストーリー」を重視する傾向が鮮明になっています。特に富裕層・都市部の若年層の間では、食の選択がライフスタイルの一部として認識され、日本のクリーンイメージと親和性が高まっているのが特徴です。

こうした健康志向と並行して、タイ市場では「抹茶」人気が引き続き高水準を維持しています。THAIFEX 会場でも、抹茶関連製品の試飲ブースには多くの来場者が足を止め、特にミルクティー、スイーツ、サプリメントに応用された抹茶商品が高い注目を集めました。

抹茶はその「抗酸化作用」「カフェイン控えめ」「自然で上品な香り」などがタイ人消費者に広く認識されており、飲料市場ではグリーンティー製品の高価格帯製品として定着。加えて、日系・タイ系のスイーツブランドがコラボレーション商品を展開するなど、抹茶は「ヘルシーでおしゃれ」かつ「日本らしさ」を象徴する素材として受け入れられており、高品質な日本製抹茶へのニーズは今後も拡大が見込まれます。

最後に

THAIFEX – Anuga Asia 2025 は、来場者数・出展者数・商談額のいずれにおいても過去最高を記録し、東南アジア最大級の食品展示会としての存在感を改めて示しました。特に、持続可能性や健康志向を軸にした製品が強い注目を集めたことは、食品業界が単なる「供給」から「価値提案」へと進化していることを物語っています。

また、日本からの出展も活発で、抹茶をはじめとした高品質な日本食品への関心の高まりは、タイ市場における日本ブランドの信頼と親和性の高さを裏付けるものとなりました。

次回の「THAIFEX – Anuga Asia 2026」は、2026 年 5 月 26 日～30 日での開催が予定されています。アジア市場でのプレゼンスを高めたい企業にとって、現地のニーズや業界動向を直接肌で感じる貴重な機会となるはずです。



Photo: Koelnmesse Pte Ltd / THAIFEX – Anuga Asia

<https://thaifex-anuga.com/for-media/image-database/#>

□■メコン川流域の経済ポテンシャルとタイの地域連携戦略■□



メコン川

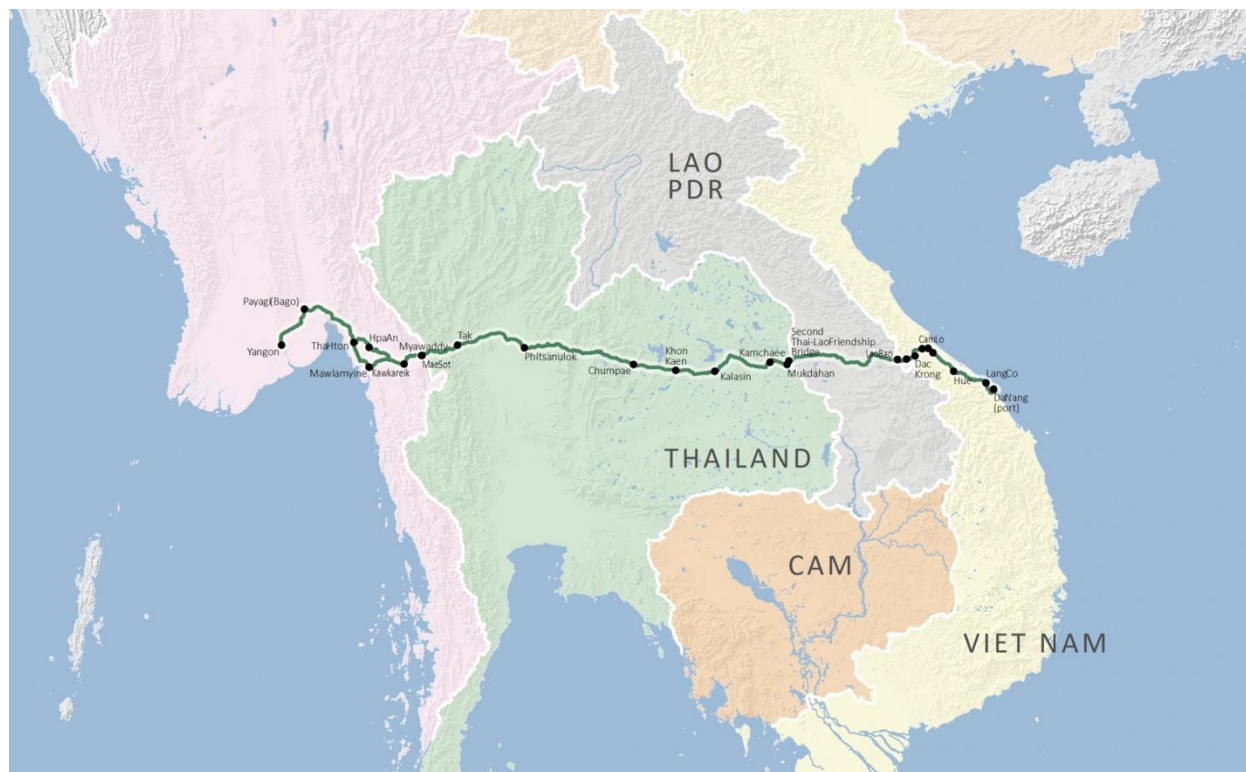
こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスのタイ人スタッフ、グラフです。

タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、そして中国南部からなるメコン川流域地域は、いまやASEANにおける新たな経済成長の中核として注目を集めています。総人口は3億人を超え、継続的な高成長とともに、国境を越える交通・物流ネットワークが発展。これにより、タイはインド洋と太平洋をつなぐ「接続のハブ」として、3つの主要経済回廊の整備を進めています。

これらの経済回廊——東西経済回廊（EWEC）、南北経済回廊（NSEC）、そして計画中の南部経済回廊（SEC）——は、工業、農産品加工、クリーンエネルギーといった分野における新たな投資機会を生み出しています。

インフラと経済回廊：地域発展の大動脈

東西経済回廊（EWEC）：二大洋を結ぶ陸の橋



東西経済回廊（EWEC）

EWEC は、ミャンマーのモーラミヤイン港とベトナムのダナン港を、タイおよびラオスを経由して結ぶ約 1,450km の陸路で、グレート・メコン・サブリージョン（GMS¹）の経済協力における成功事例とされています。

特にタイ国内では、国道 12 号線（ムクダハーン～メーソット間）の整備が進められており、物流の効率化、輸送時間の短縮、コスト削減が期待されています。

また、ムクダハーン県やターク県に設置された国境経済特区（SEZ²）では、自動車部品や電子機器などの製造業への外国直接投資（FDI）が進んでおり、地域経済の活性化と雇用創出にもつながっています。

※ 1：GMS（グレート・メコン・サブリージョン）とは、カンボジア、中国の一部、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナムの 6 か国による地域経済協力の枠組みです。アジア開発銀行（ADB）が 1992 年に主導して開始し、貿易・交通・観光・電力などの分野で国を超えた連携を強化しています。

※ 2：国境経済特区（Special Economic Zone、SEZ）は、特別な税制優遇や規制緩和が適用される地域で、貿易・投資の促進が図られています。

出典 1 : <https://www.itd.or.th/wp-content/uploads/2019/09/2-1.pdf>

出典 2 : <https://tractus-asia.com/blog/thailand-highway-12-fuels-ewec/>

南北経済回廊（NSEC）：中国との貿易の玄関口



南北経済回廊（NSEC）



R3A ルート

R3A ルート（昆明～ボーテン～チエンコーン～チエンライ～バンコク）は、「昆明～シンガポール高速鉄道構想」および南北経済回廊の一部として整備が進んでいます。

2021 年には中国・ラオス鉄道（昆明～ビエンチャン）が開通し、タイの鉄道網との接続が視野に入り、ラオス・タイ国境地域の物流効率化が進んでいます。

このルートは特に果物や農産物など、タイから中国への輸出において重要な役割を担っており、地域全体の貿易・物流戦略における要所とされています。

出典 3 : <https://tcbr.org/gms-economic-corridor/>

出典 4 : <https://www.greatermekong.org/g/economic-corridors-greater-mekong-subregion>

タイの「接続ハブ」としての取り組み

1. スマートロジスティクスの推進

タイ政府は 2025 年の本格運用を目指し、レムチャバン港第 3 期およびソンクラーク港において、AI やブロックチェーンを活用した次世代ロジスティクスシステムの整備を進めています。総投資額は 2,300 億バート以上とされ、これにより貨物処理時間は従来の

平均 8 日から 3 日に短縮され、物流コストも最大 18%削減できると見込まれています。

出典 5 : <https://tcbri.org/gms-economic-corridor/>

出典 6 : <https://tractus-asia.com/blog/thailand-highway-12-fuels-ewec/>

2. 異文化間人材の育成

タイ東北部のコンケン県にある「メコン・日本技術研修センター」では、IoT やロボティクス分野を中心に、CLMV 諸国³の若者を対象とした職業訓練プログラムを実施しています。2023 年には、1 万人以上の研修生がこのセンターで学んだと報告されています。三菱重工業や日立製作所などの日本企業も、研修機器や教材の提供を通じて人材育成を支援しています。

※3 : CLMV 諸国とは、カンボジア (Cambodia)、ラオス (Laos)、ミャンマー (Myanmar)、ベトナム (Vietnam) の 4 カ国の総称です。ASEAN の中で比較的新しい加盟国であり、経済開発の遅れが目立つため、経済成長が期待される地域として注目されています。

出典 7 : <https://www.jica.go.jp>

出典 8 : <https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000406731.pdf>

日本企業にとっての投資機会

1. 農産品加工産業

メコン地域では年間 8,500 万トンのコメが生産され、世界の約 10%を占めています。タイやベトナムでは高品質なコメが栽培されており、日本企業にとっては、発芽玄米や栄養強化米といった高付加価値商品の開発に向けた投資機会が広がっています。

2. 特にベトナムでは、ハイテク農業プロジェクトへの最大 30%の投資補助金が提供されており、技術と加工の融合によるバリューチェーン構築の好機です。

出典 9 : <https://en.wikipedia.org/wiki/Rice>

出典 10 : <https://www.ijstr.org/final-print/aug2021/Incentive-Policies-For-High-tech-Agriculture-In-Vietnam-Current-Situation-And-Implications.pdf>

出典 11 : <https://www.vietnam-briefing.com/news/why-agtech-industry-will-aid-vietnams-hi-tech-growth.html>

3. クリーンエネルギー

ラオスは水力発電を中心に電力を周辺国へ輸出していますが、近年では太陽光発電へ

の関心も高まっています。ASEAN 電力網（APG）の一環として、ラオス、タイ、マレーシア、シンガポール間での電力共有を進める LTMS-PIP（ラオス-タイ-マレーシア-シンガポール電力統合プロジェクト）にも参画しています。

現在、日本政府は「グリーンメコン・イニシアティブ」や「自由で開かれたインド太平洋」構想のもと、ラオスを含むメコン諸国に対し、エネルギー分野の技術協力やインフラ整備支援を行っています。JICA は送電インフラ計画策定や電力マスタープランの支援を行っており、今後の投資余地が広がっています。

出典 12 : <https://www.mofa.go.jp/files/000406731.pdf>

出典 13 :

<https://greatermekong.org/g/sites/default/files/Attachment%20%20Development%20of%20ASEAN%20Power%20Grid.pdf>

メコン投資の課題と対応策

高いポテンシャルを持つ一方で、メコン川流域への投資は 3 つの大きな課題を抱えています。

1. 越境規制の非統一

メコン地域では、国ごとに税関手続きや規制が異なるため、物流に遅延やコスト増が発生することが課題です。このため、ASEAN では「ASEAN 単一窓口（ASW）」の導入と連携強化が進められており、2025 年までに電子通関を活用した効率的な貿易体制の構築を目指しています。

ただし、中国（雲南省・広西自治区）は ASEAN 非加盟であるため、別途国際協力が必要とされています。

2. 技能人材の不足

日本政府は、2030 年までにメコン地域で約 5 万人の技能人材を育成する「人材育成・技能移転プログラム」を進めています。ICT、製造業、ロジスティクス、農業技術など、多様な分野で日本の技術・知見を伝えることを目的としています。

3. この取り組みは「東京戦略 2023」のもと、総額 5,000 億円規模の支援の一部として実施されています。

出典 14 : <https://www.mofa.go.jp/files/100703926.pdf>

今後の展望と注目分野

2021 年にアジア開発銀行（ADB）が策定した「GMS 2030 戦略枠組み」では、メコン地域における経済統合、デジタル経済の発展が重点課題とされており、インフラ・エネルギー・物流の連携強化が進められています。今後、一部地域では地域データセンターの設立も検討されています。

日本も「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」構想や「日メコン協力」の枠組みを通じて、エネルギー・食料安全保障、デジタル分野などで支援を行っており、地域の安定と発展に寄与しています。

メコン地域は、年率 3～7%の経済成長率、豊富な労働力人口、多様な天然資源を背景に、日本企業にとって今後の戦略的な投資先として注目されています。特にタイは、インド洋と太平洋をつなぐ「接続のハブ」として、スマートロジスティクスの導入や国境経済特区（SEZ）の整備を進めており、最大 13 年間の法人税免除、輸入機器の関税免除、土地使用権の拡大、外国人労働者のビザ優遇など、包括的な投資優遇措置が用意されています。

さらに、研究開発（R&D）への追加税控除や、インフラ開発に対する補助金制度も整備されつつあり、先端技術分野やグリーンプロジェクトへの投資を積極的に後押しする制度環境が整備されてきています。

出典 15 : <https://www.mofa.go.jp/files/000406731.pdf>

出典 16 : <https://greatermekong.org/strategy>

投資先として注目される分野

- EV・バッテリー産業

ラオスのリチウムやレアアースなどの鉱物資源と、タイの自動車製造エコシステムを組み合わせた次世代バッテリーのサプライチェーン構築に期待が集まっています。

- スマート農業

ベトナムやタイでは、IoT やドローン、センサー技術を用いた高度農業が導入され、収益性向上が見込まれています。

- ・ ヘルスツーリズム

タイの高品質な医療サービスと、カンボジアやラオスの歴史都市を組み合わせた医療・観光複合型のモデル構築が進められています。

これらの分野への投資は、将来的なグローバル・バリューチェーンへの参画に向けた基盤構築となるでしょう。

タイは、アセアン・インド・中国南部の3億人以上の成長市場と日本をつなぐ「戦略的なハブ」として、その存在感を一層高めています。

□■外国人におすすめしたいタイの観光地：ワット・ロンクン■□



こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスのタイ人スタッフのニンです。

タイには、豊かな自然や歴史・文化に触れられる観光地が数多くあります。だから、「外国人にタイの観光地を一つだけおすすめするなら、どこを紹介したいですか？」と聞かれたら、正直なところ一つに絞るのはとても難しいです。ですが、どうしても一つ選ぶとしたら、私はタイ北部にあるお寺「ワット・ロンクン（Wat Rong Khun）」をおすすめします。

その理由は、ワット・ロンクンが非常に美しく、タイらしさを感じられるお寺だからです。私は数年前にこのお寺を訪れたことがあります。そのときに見た美しさが今でも強く印象に残っています。だからこそ、この美しさをぜひ外国の方にも知ってもらいたいです。

ワット・ロンクンの概要

ワット・ロンクンは、タイの伝統的な仏教建築と現代アートが融合して造られた、真っ白な寺院です。その特徴的な白い外観から、「ホワイット・テンプル（White Temple）」とも呼ばれています。また、タイを代表するアーティスト、チャルーンチャイ・コーシピパット（Chalermchai Kositpipat）氏が私費で建設したことで知られています。彼の独創的なデザインによる白く輝く建築と精緻な装飾は、多くの観光客を惹きつけています。

ワット・ロンクンのハイライトスポット

ワット・ロンクンの敷地内には、美術館や「願いの井戸」など、さまざまな見どころがあります。その中でも特に見逃せない三つのスポットをご紹介します。

白い本堂



ワット・ロンクンの象徴ともいえる白い本堂は、純白の外観に繊細な彫刻が施された壮麗な建物です。本堂の正面には小さな池があり、その上にかかる橋を渡って本堂へ向かいます。この橋は「生と死の世界を超える旅路」を象徴しており、橋の下には地獄を表現した彫刻が並び、仏教の教えを視覚的に伝えています。

本堂は寺院の前方に堂々と建てられており、ワット・ロンクンのメインエントランスを入るとすぐにその美しい姿を目にすることができます。

ガネーシャ館



ガネーシャ館は黄金色の外観を持つ建物で、建物の上部中央にはガネーシャ像がそびえ立っています。建物の周囲は池に囲まれており、夕暮れ時には金色の建物と空の色が水面に映り、幻想的な美しさを演出します。

美しい写真を撮りたい方は、夕方の時間帯に訪れて、池に映るガネーシャ館の絶景を撮影するのがおすすめです。また、館内ではガネーシャに関する展示もあり、興味のある方には見応えのあるスポットです。

アート洞窟



島根・ビジネスサポート・オフィス便り vol.128

アート洞窟は、仏教思想をテーマに創造された彫刻アートの空間で、その建設には 6 年以上の時間を要しました。

アート洞窟の内部には、地獄や天国に関する仏教美術が展示されており、訪れる人に「地獄から天国への旅」を体感させてくれる空間となっています。また、美しい鍾乳石をモチーフにした彫刻も展示されており、幻想的な雰囲気を楽しむことができます。

アート洞窟への入場には、50 バーツ（約 200 円）の入場料が必要です。この料金はワット・ロンクンの入場料には含まれていませんので、ご注意ください。

ワットロンクンの営業時間及び入場料

ワット・ロンクンの営業時間は、午前 8 時から午後 5 時までです。年中無休で開いています。入場料は、タイ人は無料ですが、外国人は 100 バーツ（約 440 円）かかります。

最後に

ワット・ロンクンはチェンライ空港から約 26 キロ離れており、車でおおよそ 30 分の距離にあります。タイ北部のチェンライ県を訪れる機会があれば、ぜひこの美しい寺院を実際に訪れて、その魅力を体感してみてください。

画像の出典：ワットロンクンの Facebook より

※掲載情報はご自身の判断と責任におきましてご活用ください。

※別紙に、年内に開催予定のタイ・インドネシア・ベトナムの展示会情報をまとめました。

サポートオフィスでは、現地で開催される展示会へのアテンドも行っております。

関心のある展示会がございましたら、お気軽にご連絡ください

担当：柴田 隼介 Shunsuke Shibata

Address: 1 VASU1 Building, 12 FL., Room 1202/D, Soi Sukhumvit 25,
Sukhumvit Rd., Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110

Mobile: +66(0)63-228-4585

Mail : shimane-bizsup@aapth.com

▶ タイ経済指標

項目	単位	2022	2023	2024	2025
GDP 成長率	前年比ベ (%)	2.7	1.9	2.6	3.1 (3 月)
人口*	千人	69,922	70,104	70,269	70,308 (3 月)
労働者の数*	千人	40,143	40,674	40,356	39,729 (4 月)
失業率**	%	1.32	0.98	1.00	0.92 (4 月)
最低賃金*	バンコク チョンブリー アユタヤー ラヨーン	353	353	363	372
		354	354	361	400
		343	343	350	357
		354	354	361	400
賃金：全国製造業の平均	バーツ	14,305	14,416	14,394	14,394 (24 年)
インフレ率**	前年比ベ (%)	6.08	1.23	0.06	-0.57 (5 月)
中央銀行政策金利*	%	1.25	2.50	2.25	1.75 (4 月)
普通貯金率**	%	0.28	0.40	0.39	0.28 (5 月)
ローン金利 (MLR) **	%	5.50	6.83	7.14	6.98 (5 月)
SET 指数*	1975 年 : 100	1,668.66	1,415.85	1,400.21	1,149.18 (5 月)
バーツ/100 円**	バーツ	26.78	24.82	23.33	22.60 (5 月)
バーツ/米ドル**	バーツ	35.06	34.80	35.29	33.71 (5 月)
円/米ドル**	円	131.38	144.07	153.72	144.75 (5 月)
車販売台数 (1 月からの累計)	台数	856,057	702,921	559,255	559,255 (24 年)
BOI 認可プロジェクト	件数	1,554	2,383	2,953	776 (3 月)
BOI 認可プロジェクト金額	10 億バーツ	618.62	750.12	973.14	582.22 (3 月)

*期末、**平均